

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800315		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	下関市豊浦町大字黒井1803番地		
自己評価作成日	平成28年1月21日	評価結果市町受理日	平成28年6月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年 3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・散歩や買い物等、利用者様の希望を取り入れサービスに活かしている。 ・利用者様一人一人に合った介護に取り組んでいる。 ・終末期における利用者様への身体的、精神的なケアを医療職や家族と連携して、最後までその人らしく介護が行える様努めている。 ・入浴を毎日もしくは2日に1回行い、清潔を保っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者と対話をしながら入浴の支援をされ、マッサージをしてリラックスした状態で話を聞く機会をつくられたり、日々の関わりの中で利用者の思いを把握するよう努めておられ、利用者の希望を実現させる支援に活かされています。職員は家族と共に利用者に寄り添われ、最後まで事業所で自然にすごせるように支援されて、看取りのケアにも取り組まれています。事業所では研修受講後、研修内容と所感を記した「研修記録」を全職員が提出して回覧しておられ、自分自身の学びを深められると同時に同僚の学びからも気づきを得る機会とされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時グループホームあじさいの理念を唱和し、共有して実践につなげようとしている。また、あじさいの事業所理念を名札に掲示して、いつでも確認出来る様にしている。	法人の理念と事業所の理念を事業所内に掲示し、朝礼時に唱和して確認している。職員は、利用者一人ひとりを理解して、安心して自由に生活できるよう対応し、笑顔で接して理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、隣近所への日常的な交流を行っている。	自治会に加入し、管理者が総会に出席し、職員が年2回の地域の草刈りに参加している。利用者は地域の寺の法要(春、秋)や御大師様参り、神社の祭り、地域の文化祭、公民館のクリスマス会(フラダンス)、大正琴の演奏会、豊真将の引退セレモニーなど地域の行事に参加し地域の人と一緒に楽しんでいる。散歩に出かけて近所の人と挨拶を交わすなど日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や地域の行事に参加したり、運営推進会議で日常の様子を写真を用いて、認知症の方への理解を努めている。また、見学・相談も行っている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が事業所内の勉強会で自己評価及び外部評価について学び、理解と活用に取り組んでいる。	主任が勉強会で全職員に評価の意義について説明し、評価をするための書類を配布し、職員に記入してもらい主任がまとめている。外部評価結果は運営推進会議で報告し、避難訓練への参加を呼びかけ自治会長や副会長、駐在所員、家族2人の参加を得ている。職員が消防署のAED講習に参加したり、看護師を講師として緊急時の応急手当や初期対応の訓練を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、職員間で共有・議事録に残し、出来る事から実践している。	新たに民生委員をメンバーに加え、会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、活動、ヒヤリハット、自己評価、外部評価などの報告をしている。避難訓練について話し合い、運営推進会議のメンバーが参加して訓練を実施している。行方不明者の対応についての意見があり、家族の了解を得て利用者の写真を活用したファイルを作成しているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、介護福祉課や地域包括支援センターと協力関係を築く様、取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議の他、直接出向いて情報交換したり、相談をして助言をえているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議等で助言を得るなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓等の施錠は新しく入って来られた入所者様が徘徊されるため、慣れるまでは施錠している。また、外出の際は一緒に行動する様にしている。勉強会で身体拘束について学び拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、職員は内部研修で学び、理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて朝礼や夕礼で話し合い、気になるところは職員同士で注意し合っている。運営推進会議で話し合い、家族の了解を得て玄関の施錠をしているが、庭に出るリビングや廊下の施錠はせず、利用者が外出したい時には職員と一緒に外出するなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、意識して身体的・精神的ケアに努めている。また、疑問に思う事は職員会議等で話し合うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行っている。また、家族から質問があった時等、説明して理解・納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置している。家族面会時や常時電話で苦情・要望等受付ている。	相談や苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きを契約時に家族に説明している。苦情箱を設置している。面会時や運営推進会議参加時に家族の意見や要望を聞いている 他、運営推進会議の出欠返信はがきに意見を聞く欄を設けている。運営に反映させるような意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	月1回の職員会議や朝礼、夕礼、行事終了後の反省会で職員の意見や提案を聞いている。主任は日常業務の中で職員に声かけをして意見を言いやすい雰囲気をつくっている。月1回の法人の会議で主任が事業所からの意見を伝え運営に反映させている。パート職員が出勤しやすい体制づくりを行ったり、季節行事など利用者の楽しみ事の企画など、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の定期的実施を行い、向上心を持って働けるよう、また、個々の資格取得への奨励に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、OJTを取り入れ教育指導を行っており、面談シートも活用し状況把握に努めている。また、毎月勉強会を行い、職員のレベルアップを図っている。	外部研修は情報を職員に伝え、本人の希望や段階に応じ、勤務の一環として年2回参加している。法人研修は外部講師を招聘し全職員が受講できるよう同じことを2回実施し、一人が年2、3回受講している。内部研修は年間計画を立て、月1回、主任や職員が講師となつて身体拘束、認知症、薬、介護記録、口腔ケア、感染症、看取り、転倒等について実施している。新人研修は法人で2年に1回実施し、事業所で日常業務を実践しながら主任や先輩職員が指導している。研修受講後は全職員が研修内容と所感を記した「研修記録」を提出し、回覧している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会や地域ケア会議等に参加し、交流を通して活動をしている。また、施設見学も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からの訴えを傾聴しながら不安を取り除くよう、働きかけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、面会時等、家族から要望を聞き、話し合う事で関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を交えた面談と同意を得て、必要な支援を行う。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、職員と一緒に家事や行事の飾り作り等を手伝ってもらっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子を話したり、居室で家族と過ごす時間を作っている。また、必要時連絡を取り、情報共有に努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会や地域行事に参加する事で、馴染みの人・場所との関係が途切れないよう支援している。	家族の面会や知人の来訪を支援している。馴染みの神社への初詣や祭りの参加、寺の春秋の法要や公民館祭りへの参加、知人の家への訪問、馴染みの店での買物、自宅周辺のドライブなどを支援している他、家族の協力を得ての帰宅、外泊、法事への参加、寺参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立しないよう、席への配慮をしたり、職員が間に入り、利用者同士が円滑に交流を持てるよう、支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情は意向を聞きながら、また、家族からの意向も聞きながら把握に努めている。	入居時に本人や家族から聞いた生活歴や思いなど基本情報をフェースシートに記録している他、日々のかかわりの中で利用者に寄り添って、入浴時に対話しながら話を聞く機会をつくって、利用者の表情や気づいたことを介護記録や申し送りノートに記録して、朝礼や夕礼、カンファレンスで検討して、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報提供書、または家族や本人から得た情報を把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表や介護記録を基に、朝礼、夕礼、職員会議等で現状の把握に努めている。また、いつもと違う表情を見逃さない。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、本人・家族必要な関係者の意向を取り入れ、職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。また、毎月サービス実施チェック表を記入している。	本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして、計画作成担当者を中心に月1回のカンファレンスで職員が話し合い、介護計画を作成している。利用者別に介護サービス実施状況を一覧表にして毎日のケアを確認しやすいように工夫している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月で見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化を介護記録・申し送りノートに記入し、朝礼・夕礼等で情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を取り入れながら、ケアカンファレンス等で情報を共有し、検討・見直しを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練を行い、自治会長やご近所の方への理解を深め、協力をお願いしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による、定期的な往診を行い、また、家族の希望により、かかりつけ医に定期的に通院・受診の介助を行うことにより適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望に沿って協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。他科の受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は電話や来訪時に家族に報告するとともに通院往診記録で職員が共有している。看護師による健康チェックを毎日行い、緊急時はかかりつけ医と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化等、すぐに看護職に伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にお見舞いに行き、本人の状態を確認している。本人の状態を病院関係者に伺うことで関係作りも出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態変化が見られる度に、本人や家族の意向を確認し、本人の状態の変化の都度、話し合いを行い、家族と協力しながら、支援するようにしている。	契約時に重度化及び看取りに関する指針に基づき、事業所のできる対応について、本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、本人や家族の意向を確認しながら、かかりつけ医や看護師、職員など関係者が話し合って方針を共有し、運営推進会議でも報告して、看取りのケアに取り組んでいる。職員は家族と共に本人に寄り添って支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止については、ヒヤリハットを共有し、実践している。また、勉強会にて「緊急時の対応」を学び、消防署による、救命救急講習も受けている。	ヒヤリハット報告書に発生時の状況や対応等を記録して申し送りで報告し、報告書や申し送りノートを回覧して共有している。職員会議やカンファレンスで話し合い、ケアプランに反映させて利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。全職員が消防署のAED講習を受講しており、応急手当や初期対応について看護師が指導する訓練を実施している。転倒打撲事例が発生した際は適切な対応ができているが、すべての職員がいつでも対応できる応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている。また、地域の方にも訓練に参加して、協力体制を築いている。	年1回、運営推進会議後に、消防署の協力を得て、昼間火災を想定した避難、通報訓練を、メンバーの自治会長、副会長、駐在所員、家族が参加して実施し、利用者と一緒に避難経路の確認をしている。年9回、職員が通報装置や消火装置の使い方の訓練や利用者と一緒の避難訓練を実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、適切な声掛けや対応をしている。朝礼・夕礼時の申し送りにはイニシアルを用い、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	職員は内部研修で学び、人格の尊重とプライバシーの確保について理解して、人生の先輩として尊敬の念をもって利用者に接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応に気づいたときは、職員会議やカンファレンスで話し合っている。個人情報の保管や守秘義務について配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合った声掛けやおやつや入浴の時間、着替え等、本人に選んでもらったり、希望を聞く様にしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて意思を尊重するようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、散髪のを機会を設けている。状況に応じて洋服を選んでもらうようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態に合わせて、普通食・一口大おにぎりで対応している。また食器洗いや食器拭き等、一緒に楽しみながら行っている。	三食とも配食を利用している。役職会議に厨房の責任者が参加して話し合い、利用者の好みを反映させた献立を立てたり、食品交換をするなどの工夫をして、一人ひとりに合わせた食事の提供に努めている。利用者は食器洗いや食器拭きなどできることを職員と一緒にしている。おやつづくり(たこ焼き、ホットケーキなど)、ウッドデッキでの食事、弁当持参の花見、公民館祭りのぜんざい、寺の法要でのおとき、季節の行事食(ひな祭り、節句、敬老会、クリスマス、おせちなど)、誕生日のケーキや赤飯、ちらし寿司、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事摂取量、水分摂取量を記入し把握している。場合によっては、好みの物を提供するなど、個別の対応も行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて、歯ブラシや口腔スポンジを使って口腔ケアを行っている。また、利用者一人ひとりの力に応じて介助を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表や水分表を見て、排泄パターンを把握し排泄の失敗やおむつの使用を減らす事が出来るよう、早めのトイレ誘導を行っている。	排泄水分表を活用して排泄パターンを把握して、利用者一人ひとりのに合わせた言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表や水分摂取表、健康管理表を作成し、適度な運動や起床時には、牛乳やバナナを提供し、腹部マッサージを行う等、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	馴染みの職員との入浴対応や、利用者の入浴の希望や時間の希望に合わせた入浴の支援を行っている。	入浴は毎日、10時から11時30分までの間と13時30分から15時までの間可能で、浴槽は左右から入れるように設計しており、利用者のききての方向から入浴できる。入浴時は坪庭の花木を眺めたり柚子を浮かべて季節の変化を楽しんだり、職員との対話やマッサージを楽しんでいる。入浴したくない人には入浴時間帯を変更したり、職員を交代する、言葉かけの工夫をするなどして入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場は湯たんぽを使用し、室温の管理や定期的なリネン交換を行っている。その人の状態に合わせて休んでいただく時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を作成し、把握出来るようにしている。また、勉強会で「薬の作用・副作用」について学んでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事への参加や外出、散歩等で気分転換を図ったりしている。洗濯物畳みや食器洗い、食器拭きもしてもらっている。	事業所内に手づくりで鳥居と賽銭箱を設置しての初詣をしたり、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会、みかん取りゲーム、誕生日会、歌を歌う、音楽を聞く、ぬり絵、折り紙、切り絵、絵本の読み聞かせ、ダーツ、風船バレー、ボーリング、カルタ並べ、ボール投げ、マッサージ、ラジオ体操、リハビリ体操、梅干し体操、下膳、食器を洗う、食器を拭く、洗濯物干し、洗濯物たたみなど活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が出たい時、自由に出れるようにしている。地域行事への参加や週に一度の買い物、家族と協力して病院受診等、定期的に外出出来る機会を設けている。	季節の花見(梅、桜、菖蒲、コスモス、紅葉など)、寺の春秋の法要、大正琴コンサート、ギター演奏会、豊真将引退セレモニー、公民館のクリスマス会、地域の祭り、文化祭、神社参り、週1回の買物、近隣の散歩、家族の協力を得ての外出や外食など、利用者の希望に添って日常的に外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お金を所持しており、買い物に行けるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛ける事に対して支援を行い、手紙のやりとりについても支援している。また、本人宛に届いた手紙は渡している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室やリビングから庭の景色を見る事が出来たり、利用者が好む音楽を流したり、壁面飾りをする事で、季節感が味わえるよう、雰囲気作りに配慮している。また、床暖房の設備もあり、快適に過ごせるようにしている。	自然光が差し込む明るいリビング兼食堂の壁面には利用者の菜の花の作品を飾り、洗面台には菜の花を飾って、季節を感じる事ができる。室内は広く、温度や湿度、換気に配慮し、床暖房で、素足で過ごしている利用者もいる。アイランド型のキッチンの前に、テーブルや椅子、ソファ、テレビを配置し、畳のコーナーがあり、利用者が居心地よく過ごせるように工夫してる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の決まっている利用者もいるが、ソファで寛いだり、席の移動は自由に行える様、支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真やぬいぐるみ等、持参の小物を飾って居心地良く過ごせるようにしている。	ダンス、衣装ケース、椅子、机、テレビ、布団、日用品など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、縫いぐるみ、カレンダー、誕生祝の似顔絵の壁掛けなどを飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりをつけて対応したり、個人の状態に応じて、車椅子等を取り入れる等、出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい

作成日：平成 28 年 6 月 11 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変時や事故発生時に備えて定期的な内部研修や職員間の情報共有を行っているが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践を身につける。	全職員が消防署による救命救急講習を受講する。また、職員間でヒヤリハットや事故報告書の情報を共有すると共に、看護師指導による応急手当や初期対応の研修を継続的に行う。	12ヶ月
2	36	定期的に昼夜の火災を想定した避難・通報訓練や地震訓練を入所者と一緒に行い、防災について勉強会を実施しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	避難訓練実施時、地域の方にも参加してもらえるよう、協力体制を作る。	避難訓練実施前には、地域の方に案内状を送付し、参加してもらえるよう関係を築く。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。